

校内適応指導教室について

【北区立 A 中学校の取組】

不登校生徒の状況

対象生徒は、教室に入れない生徒である。教室に入ると過度に体力を消費してしまったり、コミュニケーションの取るのが難しかったり、広い空間にいたることがいれなかったりするが、校内適応指導教室だったら登校することができる生徒が登校している。

具体的な取組

大学生支援員が個々に合った課題を用意して、週に2回来ている。勉強に向かなかった生徒も積極的に取り組むことができた。



美術の課題の「粘土」で自分の好きな作品作りを行った。各教科の教員と連携し、生徒の学習への意欲を高めている。



学級支援員が個別対応し、興味がわきそうな課題を持ってきてくれることがある。心理についてのプリントを用意してくれた。



SCが定期的に面談を行って、生徒の困り感を聞いてくれている。その後、校内委員会で情報共有をすることができている。



成果

校内適応指導教室をつくることで、登校できる日数が増えている。中には、授業に入ることもできている生徒もいる。生徒が挑戦しようとするチャンスを見逃さないようにしている。

課題

勉強をやらせたくても学習に向かえないときがあり、一人一人の支援の方法を見つけて見立てるのが難しい。また、登校時間が決まっていないから、教員間での円滑な情報共有が課題である。